

## 修了評価の方法（修了評価基準）

- 全科目を履修し、且つすべての実技評価合格基準を満たしたことを前提とする。
- 筆記試験を実施する。（1時間）※研修時間の130時間に含まない。
- 評価を行う講師：三村 薫、塩田 より、平賀 道子、石田 麻子

### 1 出題形式・出題数

- ・ 出題形式 全て四肢択一形式
- ・ 出題数(配点)及び試験時間
  - 2 介護における尊厳の保持・自立支援…3問(9点)
  - 3 介護の基本…5問(15点)
  - 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携…6問(18点)
  - 5 介護におけるコミュニケーション技術…3問(9点)
  - 6 老化の理解…3問(9点)
  - 7 認知症の理解…6問(18点)
  - 8 障害の理解…4問(12点)
  - 9 こころとからだのしくみと生活支援技術…3問(6点)その他 事例問題…2事例…2問(4点)  
(合計 35問)
- ・ 配点

問 1 から問 30 まで(30 問)	各 3 点
問 31 から問 35 まで(5 問)	各 2 点
- ・ 満点 100 点満点
- ・ 試験時間 60 分

### 2 合否判定基準 70 点以上を合格基準とする。

- ・ 合否判定基準は、次のとおり、理解度の高い順に A、B、C、D の 4 区分とし、C 以上で合格と認定する。  
※合否判定基準(100 点を満点とする)  
※A=90 点以上、B=89~80 点、C=79~70 点、D=70 点未満

### 3 合否判定で「不合格」となったときの取扱い

- 正答率 70%の合格基準を満たせなかった者については、原則として個別対応形式での補講を対面にて実施する。  
(回数=1回、時間については訓練生の状況を鑑みて講師が適宜判断する)  
なお人数が多い場合についてはグループ単位で行うこともある。  
修了評価試験の採点結果を基に、理解が低いと思われる分野、得点状況の低い分野から優先的に補講を実施し、各科目・分野の到達目標をクリアできるようにポイントを理解させる。
  - 補講は1時間 3,800円(税別)の有償とする。
- 上記の補講を行った上で、類似する内容での再試験を別日に実施する。  
70点以上の得点者を、修了試験の合格基準を満たした者とする。